

# 放射線検査室

技師長 堤内敬夫

2004年度の放射線検査室スタッフは昨年同様放射線技師4名であった。

## 【MRIの稼働】

4月より本格的なMRIの稼働を始めた。今年度の総件数は1,848件でその内訳は撮影部位別に、脳神経領域1,141件(61.7%)、整形領域382件(20.7%)、消化器領域143件(7.7%)、泌尿器領域83件(4.5%)、循環器領域61件(3.3%)、その他38件(2.0%)であった。また救急患者にも24時間対応を行い、特に超急性期の脳梗塞の診断に関して大いに貢献できたのではないかと考える。

他にも非造影による血管系の描出が可能であり、被侵襲的な患者にやさしい検査が行え、必要に応じ三次元画像も作成し診断能の高い画像を提供できている。

## 【骨密度測定装置の導入】

近年の高齢化社会にともない、骨折、寝たきりの最大の原因の一つである骨粗鬆症への関心が高まりつつある。当院の患者も高齢者が多く、骨粗鬆症の早期発見、予防を目的に6月に骨密度測定装置を導入した。この装置は極めて少ないX線を使用し、高齢者の骨折の多い部位となっている腰椎、股関節、手関節の測定が可能である。

今年度の件数は178件であった。今後も地域住民の寝たきり防止に役立つのではないかと考える。

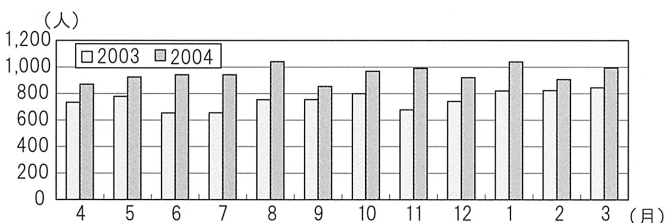
## 【造影検査同意書の導入】

当放射線検査室では、医師の指示によりX線用造影剤(バリウム、ヨード系)、MRI用造影剤、検査前処置薬などを投与し検査を行う。このうち水溶性ヨード製剤とガドリニウム製剤による重度の副作用の発生が考えられる。これらの副作用の発生を未然に防ぎ、造影検査の必要性和危険性を理解してもらうために、CT、MRI造影検査についての同意書を2005年3月に導入した。

以前より造影検査問診票で造影剤アレルギー歴、喘息の既往、腎機能障害などのチェックは行っていたが、前回異常がなくても新たな副作用の発生も考えられる。同意書を導入したことにより副作用がなくなるわけではなく、患者とのコミュニケーションが重要であるという事を改めて認識することができたと考える。

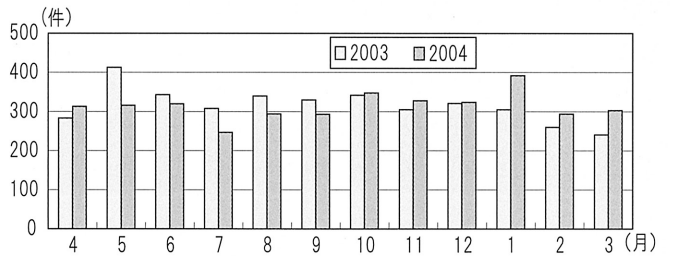
## 一般撮影

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2003	734	778	653	654	753	745	799	677	741	820	823	844	844
2004	870	924	942	942	1,040	854	968	990	920	1,039	906	994	11,389



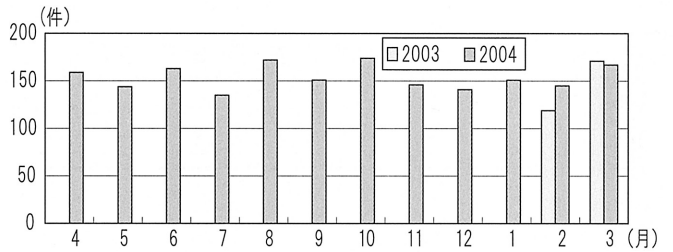
## C T

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2003	283	413	343	308	340	330	342	305	321	305	260	241	3,791
2004	313	316	320	247	294	293	348	328	324	392	294	303	3,772



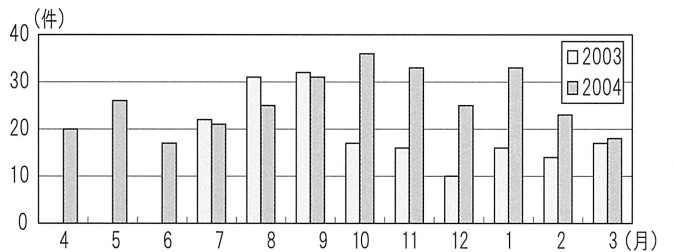
## MRI (2004年2月より稼働)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2003											119	171	290
2004	159	144	163	135	172	151	174	146	141	151	145	167	1,848



## 透視造影 (2003年7月より稼働)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2003				22	31	32	17	16	10	16	14	17	175
2004	20	26	17	21	25	31	36	33	25	33	23	18	308



## 骨塩定量 (2004年6月より稼働)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2003													
2004			13	36	43	15	20	17	9	8	10	7	178

